opusdei.org

属人区長の手紙 (2015年4月)

属人区長は、家族のための「マリア年」に関して、書簡に、子どもの教育における両親の掛け替えのない役割について書いています。

2015/04/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たちと息子たちをお守りくださいますように!

聖週間の只中にいます。聖母により 頼み、聖母に捧げられたこのマリア 年に祝う過越しの三日間を、一人ひとりが生き生きとした望みをもって、主のご受難、ご死去とご復活の場面により深く入り込むことができますように。

去る3月28日は、聖ホセマリアの司祭叙階90周年の記念日でした。明日の聖木曜日の典礼は、エルサレムの高間での晩餐におけるご聖体と司祭職の制定を力強く思い起こさせます。その後、復活徹夜祭では、罪と死に打ち勝ったイエス・キリストの勝利を告げます。主において、復活れを通して一私たちは主の死と復活に与ることになりました。

教会はキリスト教入門の秘跡一洗礼、堅信、聖体一を復活徹夜祭の間に授けます。私たちは通常、これらの秘跡を幼児期に受けます。それは、始まりが確定できないほど大昔から福音の教えに基づいて行われていたことです。そして、この栄光の

徹夜祭には、受洗の時、私たちに代わって両親や代父母、あるいは本人が、約束したことを更新するよう勧めます。

マリア年の歩みの中で提示している 指針に基づいて、今、キリスト者と しての歩みにおけるこれらの秘跡の 重要性について考察することをおむ めします。そうすることによって 神の豊かさに与ることを可能にする る、これらの救いの秘儀を、とがで ることでしょう。

皆、各人の状況に最適な方法で家庭の福音化を手伝うことができるし、また、しなければなりません。一公立にしろ、私立にしろ一学校で働いている人に思いを馳せています。保護者や授業に出席する多くの若者に出席するりな共同責任者に思なる皆さんに思います。皆さこしてもらいたいと思います。皆さ

んの仕事で何より重要なことは、生徒たちに将来の準備をさせるため幾らかの知識を伝えることだけで満足することなく、一すでに実行していることは分かっていますが一子供々なちや青少年たちの全面的な一様々を側面で一人間的、霊的、宗教的一り成を心掛けることです。これがキリスト教教育に固有なことです。

第一に両親の役目が重要ですが、あ る意味で兄弟や祖父母など家族全員 にも関わることです。両親、あるい はそれに代わる人が、子供の教育の 第一の責任者です。家族の様々な構 成員に言及して教皇様が述べてい らっしゃいます。「子供や青少年の 皆さんは、家族という木の果実で す。木の根一祖父母一と幹一父母一 が健全なら、その木は良い実を結び ます。イエスは良い木は良い実を結 び、悪い木は悪い実を結ぶ(マタイ7. 7参照)と仰せになりました。大きな 人類家族は森のようです。そこでは

良い木々が、連帯や交流を深め、信 頼をもって支え合い、幸せのある節 度、友情を培います。大家族は社会 の希望です。ですから祖父母の存在 が非常に重要です。彼らは、具体的 な助け、何よりも教育的な協力ので きる素晴らしい存在です。祖父母は 国家や家族の価値あるものを身に着 けていて、子供たちにそれを伝える 両親を助けます」[1]。神が子供を お恵みにならなかった夫婦に私は繰 り返し言います。あなた方にも、他 の家庭のキリスト教的な形成を豊か にする重要な役目があるのです。

この使命を真剣に実行する両親はどんなにか大きな善に貢献することでしょう。ですから、まず必要なここは、夫婦と子供たちが家庭にいてことです。そして自分の家は、天国の「待合室」になれるし、またそうあるべきだと納得することです。ときあっては、一人の喜びや悲

しみに、家族皆が一喜一憂するからです。

聖ホセマリアは、このことをはっき りと教えましたが、これも個人的な 経験の実りでもあります。ある折、 主がどのようにオプス・デイ創立を 準備されたのかを思い起こし、こう 言われました。「キリスト信徒の家 庭で生まれるようにしてくださいま した。私の国でよくあるように、両 親は真面目で模範的に信仰を実行 し、私をごく幼い時から、注意深く 見守りつつ、自由に振る舞わせ、キ リスト教的に教育するよう努めまし た。3歳の時からシスター経営の学 校へ、6歳からは男子校へ通わせま したが、私は学校でよりも家庭で多 くのことを学びました| [2]。

私たちのアブエロス(祖父母)の家、つまり聖ホセマリアのご両親の家で、各年代に相応しい本物のキリスト信者としての振る舞い方を学ん

だのです。晩年には、幼少期や少年 期に経験した大小さまざまな出来事 が思い浮かぶ時、神に心から感謝し ていました。家庭の父親や母親に与 えた助言は、自身の生活状況や司祭 としての広範な経験から出たもので した。

ここで特に強調したいのは、良い模 節がいかに重要であるかということ を聖ホセマリアは繰り返していたこ とです。こうコメントしました。 「子供は最初から、両親の生き様を つぶさに見ています。あなた方は気 づかないかも知れませんが、全てを 見分け、時には悪い判断を下しま す。ですから、家庭での出来事は子 供たちに良いことも悪いことにも影 響を与えるのです。信心をはっきり と表し、誠実に振る舞い、良い模範 になれるよう努めなさい。子供はそ れに倣うことでしょう。そして、皆 さんの円熟期、高齢期の誉となるで しょう。皆さんは子供たちの教科書のようです」[3]。

両親-母親だけではなく、父親も-の重要な務めは、まず子供たちに最 初の祈りを教えることです。聖ホセ マリアは「多くの祈りを義務付けて はなりません。ほんの僅か、しかし 毎日」と助言していました。「とて も小さい時には、彼らの小さな手を 取って、十字架のしるしを教えなさ い。このことを決して忘れないで しょう。皆さんの細やかさや信心 は、皆さんのご主人とご両親のそれ と相まって、子供の心の奥深くに残 ります | [4]。他の折に、愛情を込 めて面白く言い足しました。「皆さ んの子供たちが子犬のように寝に行 かないように、とよく言うのです が、非常にはっきりしていて分かり やすいと思うからです。子犬なら 隅っこに横たわるだけです。皆さん の子供たちは違います。寝る前に十 字架のしるしをし、心に何かわだか

まりがあっても、聖母と主に何らかのお祈りをして眠りにつくように教えなければなりません」[5]。

聖ホセマリアは幼少時に覚えた日祷を忘れたことはないー起床時も可能に関するいました。 「短くしていました。 「短いないではないがける。 ではないがいではないがではないができます。 では、一年ののでは、一年のでは、日本のは、日本

子供たちの成長に伴って、主の祈りやアベ・マリアのいのり、食前食後の祈り、ロザリオ…を教えていくのは当然です。少し分別がつくようになったら、ミサの意味をはっきりと理解できなくても主日のミサに両親と共に与るのはとても良いことで

す。こうして洗礼によってもたされたキリスト的存在の種が、釣り合いと調和をもって成長していきます。 そして初聖体の準備に取り掛かりますが、教会ではその前に初告解をするよう教えています。[7]

創立者はいつも、子供がその年齢に達したら、秘跡に与るよう導くことの大切さを教えていました。ある母親への助言に注目してください。

ではいいでは、 にないには、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にないでは、 にはいいでは、 にはいいでいい。 にはいいでいい。 にはいいでいい。 にはいいでいい。 にはいいがでいい。 にはいいい。 にはいいい。 にはいいい。 にはいいい。 にはいい。 にはい。 にはいい。 にはい。 には、 来る23日は聖ホセマリアの初聖体の記念日です。この日は、主が初めて創立者の心に秘跡的にお宿りになったことを、また私たち一人ひとりにも同じことのあったことを、イエス・キリストに感謝するのに特に相応しい日です。

これまでの考察は皆に役立ちます。 つまり、父親と母親、小・中・高校 の教師たち、年配の方々と一緒に属 人区の形成を助けている人たち、若 者のクラブやその他の活動で大きく 協力している若者たちとその友だち のために。

私は、家族と緊密に連携して、使徒職の意識をもって専門的に自分の役目を果たしている指導教師あるいは指導教官に心から感謝しています。皆さんの仕事には度々大きな犠牲が伴うはずですが、両親の協力や家庭における良い模範がなければ、皆さんの仕事の実りは簡単に消え失せて

過ぎたばかりの先月、ファティマの 聖母を訪ねました。あなた方皆と共 に祈りました。その上、主は、ポ トガルの子供たちの、男性と女様々 大者と年配者、司祭と信徒の様々 がループと相集う喜びを、私にき続 わせてくださったのです。引きい 私の意向に固く一致して下さい。 人 月20日の私がオプス・ディの属人 長に任命された記念日には、より 層心をこめてそうしてください。そ して、教皇様とその協力者の方々の ための祈りを増やしましょう。

心からの愛を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2015年4月1日

- [1] 教皇フランシスコ、2014年12月 28日イタリアの大家族連合会への講 話。
- [2] 聖ホセマリア、1964年2月14日 説教のメモ。
- [3] 聖ホセマリア、1972年11月12日 家族の集まりでのメモ。
- [4] 聖ホセマリア、1974年6月4日家 族の集まりでのメモ。
- [5] 聖ホセマリア、1972年10月18日 家族の集まりでのメモ。
- [6] 聖ホセマリア、1972年10月28日 家族の集まりでのメモ。
- [7] 『カトリック教会のカテキズム』1457番参照。
- [8] 聖ホセマリア、1974年7月14日 家族の集まりでのメモ。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/tegami-2015-4/ (2025/12/18)